

令和 6 年 6 月 20 日現在

機関番号：34304

研究種目：国際共同研究加速基金（国際共同研究強化(B））

研究期間：2020～2023

課題番号：20KK0006

研究課題名（和文）18-19世紀の日本における古典復興に関する国際的研究

研究課題名（英文）International Research on the Revival of Classical Texts in 18th- and 19th-Century Japan

研究代表者

盛田 帝子（飯倉帝子）（Morita, Teiko）

京都産業大学・外国語学部・教授

研究者番号：40531702

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 9,300,000円

研究成果の概要（和文）：(1)18世紀後半の王朝文化復興の好例である、ホノルル美術館所蔵『十番虫合絵巻』の影印・翻字・現代語訳・注釈・解説・英訳・論考を『江戸の王朝文化復興 ホノルル美術館所蔵レイン文庫『十番虫合絵巻』を読む』として出版し、WEBサイト「十番虫合絵巻」を公開した。(2)2023年2月11日・12日に京都産業大学で、古典の復興をめぐる国際シンポジウム「古典の再生」をハイブリッド方式で行い、問題点を掘り下げ、登壇者23名全員が寄稿して『古典の再生』と題して出版した。次世代に古典の可能性を拓く一冊となった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

ホノルル美術館所蔵『十番虫合絵巻』の国際共同研究は、13回にわたるオンライン研究会で、注釈・英訳（英注）を徹底的に議論した。ハワイ側は主として英訳、日本側は主として注釈を目的としていたが、その違いが相互に有益に働く希少な研究会となり、新しい国際共同研究の形を提示する意味で、大きな学術的意義があった。また本研究は日英両国語版として書籍化されるとともに、ホノルル美術館の日本文化紹介企画「MIYABI」（2024年4月-7月）のセンターピースに『十番虫合絵巻』を展示することに繋がり、評判もよく、社会的貢献も果たした。また、古典テキストを読むという国際的研究が十分に成り立つことを証明したことも大きい。

研究成果の概要（英文）：(1) We published a book, "The Heian Cultural Revival in Edo: Reading the Juban Mushi-awase scrolls in the Honolulu Museum of Art's Lane Collection", a collection of shadows, transliterations, modern translations, notes, commentaries, English translations, and discussions of the Juban-mushi-awase Emaki in the collection of the Honolulu Museum of Art, which is a fine example of the revival of dynastic culture in the late 18th century. The website "Juban-mushi-awase Emaki" was opened to the public. (2) On February 11 and 12, 2023, an international symposium on the revival of classics, "Revival of Classics" was held at Kyoto Sangyo University in a hybrid format. The issues were further explored in depth, and all 23 speakers contributed to the book, which was published under the title "Revival of Classics". The book opened up the possibilities of classics for the next generation.

研究分野：日本近世文学・和歌文学

キーワード：古典復興 光格天皇 国際共同研究 翻訳 デジタルヒューマニティーズ 源氏物語 物合 十番虫合絵巻

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究開始当初の背景

日本史・日本文学・日本美術史の諸分野で、18世紀末から19世紀にかけての復古的風潮について、研究が盛んになりつつある。近世史研究においては、藤田覚が、『幕末の天皇』（講談社選書メチエ、1994年、のち講談社学術文庫、2013年）や『光格天皇』（ミネルヴァ書房、2018年）において、光格天皇が天皇権威の強化策として、御所を復古的に造営し、衰退していた神儀・朝儀を次々に復興したことを明らかにし、幕末史における天皇の復古志向の重要性を説いた。このことを近世文学研究の立場から明らかにしたのが、研究代表者盛田の『近世雅文壇の研究』（汲古書院、2013年）である。盛田は、光格天皇の文化的な施策、とくに宮廷歌会の熱心な運営や神事再興への取り組みを詳細に調査することによって、古典復興と言うべき波が朝廷を覆っていた事実を明らかにした。また研究分担者の飯倉は、復古志向の強かった妙法院宮真仁法親王と地下文壇の関わりに注目し、妙法院宮文化圏の営為を通して宮廷に復古学が伝播していることを示唆した（『妙法院宮サロン』『論集近世文学5』勉誠社、1994など）。盛田と飯倉の共編になる『文化史のなかの光格天皇 朝儀復興を支えた文芸ネットワーク』（勉誠出版、2018年）は、光格天皇の復古的文化政策について、和歌・漢詩・書道・実録・出版など諸々の観点から具体的にアプローチしている。美術史では、五十嵐公一・武田庸二郎・江口恒明著『天皇の美術史5』（吉川弘文館、2017年）によって朝廷権威の復興と京都画壇の関わりが明らかにされ、杉本欣久は「妙法院門跡・真仁法親王と円山応挙の門人たち—円山応瑞・呉春・中村則苗・長沢芦雪・源琦—」（『古文化研究』第16号、公益財団法人黒川古文化研究所、2017年）で妙法院宮真仁法親王のサロンを形成した画家たちについて詳説した。建築史の岸泰子も、復古的な禁裏空間についての研究を進めている（『近世の禁裏と都市空間』思文閣出版、2014年）。

一方、イタリアの日本文学研究者エドアルド・ジェルリーニは、江戸時代における古典復興という現象は、単に歴史的な事実を明らかにすることにとどまらず、公的教育の中での古典および古典学の相対的位置が漸減している現代に、有用な問いを投げかけるヒントがあるのではないかと提唱する。「古典（テキスト）遺産」という考え方である。ジェルリーニ氏は、「古典」を「テキスト遺産」と捉え直すことによって、「古典」を過去の遺物から、現在における利用・再創造・価値付けが可能なものとして位置づけ、活用しようと提言していた。光格天皇の朝儀・古典文化の復興は、大規模に行われた「古典（テキスト）遺産」活用のモデルとして貴重な事例となるだろう。また、より範囲を拡げて、18～19世紀の京都の出版・芸能・諸芸に着目すると、「古典（テキスト）遺産」の利活用は、絵本化・二次創作化・教育コンテンツ化など、様々な形で行われており、現代における古典復興の可能性を考えるヒントを与えるものである。学際化・国際化を前提とした、古典復興の研究機運は高まっていた。本研究はジェルリーニ氏「古典（テキスト）遺産」学の方法と連携し、これを国際的共同研究に高めるための相互サポートという位置づけにもなる。

2. 研究の目的

本研究は、国際的な日本学研究の場において、前近代の文学・歴史・美術研究が原典に即した実証主義的な方向へと変化しつつある傾向に加え、歴史的典籍・史料が、隣接する学問領域を繋ぐ重要な役割を担っている現状を踏まえて、世界有数の日本古典籍コレクションを所蔵するホノルル美術館等において、歴史的典籍・史料に基づいた国際共同研究を行う。江戸時代後期に古典文化の学び・復元・憧憬という形で現れる古典復興をテーマとし、光格天皇の主導による宮廷歌会の復興、地下歌壇を中心に盛り上がる歌合・物合という復古的イベントの現象を読み解き、江戸時代における古典復興の意義を究明する。この問いは、古典をどのように再生するかという現代的課題に示唆をもたらし、現代における古典の利用や再創造といった古典の活用にも道を拓くだろう。海外所蔵機関に存在する日本の古典籍を活用する国際共同研究を実現し、国際的な研究教育に貢献することが、本研究の目的である。具体的には、江戸時代の古典復興のあり方を、さまざまな工夫をこらして、再現することにある。

3. 研究の方法

本研究の方法として、①原本（画像）を眼前にして、日本文学・文化を学ぶ海外の研究者や学生とともに議論をすること、②WEBに載せて、古典復興のありかたを可視化するような画像データ公開をおこなうことである。UCBについては、科研チームメンバーが、それぞれ王朝文化復興に関わるデジタル画像資料を用いて、UCBのジョナサン・ズウィッカーの授業で、オンライン講義を行う。ホノルル美術館ではリチャード・レインコレクションの加藤千蔭・賀茂季鷹判『十番虫合絵巻』（三島景雄筆・卷子本）を、ハワイ大学マノア校の教員・大学院生等と国際共同研究会を立ち上げて、順次注釈・英訳を施しながら読んでいく。『十番虫合絵巻』は、王朝の古典世界を再現する虫合を企画した三島景雄の自筆本であり、保存状態も非常に良好な善本である。現場を緻密に再現する絵と和文（擬古文）は、18世紀後半の古典復興の好例である。ハワイ大学マノア校の学生とワークショップを行い、これを踏まえて絵巻の詳細な解説と翻刻・注釈およびその英訳を完成させ、18-19世紀における古典復興の志向を明らかにする。原典の画像・本文校訂・英訳については、WEB公開する。上記の二つの拠点での共同研究を基に18-19世紀の日本の古典復興について考察するために、このテーマと関わりの深い研究者を国内外から招待し、国際シンポジウムを開催する。

4. 研究成果

① ホノルル美術館所蔵『十番虫合絵巻』の研究

1-1 国際共同研究会の実施

ホノルル美術館所蔵レインコレクションの『十番虫合絵巻』について、ハワイ大学マノア校のロバート・ヒューイ教授およびカリフォルニア大学バークレー校のジョナサン・ズウィッカー准教授の協力を得て、国際共同研究会である「ホノルル美術館所蔵『十番虫合絵巻』研究会」を発足した。ヒューイ教授からは『十番虫合絵巻』を国際的に発信してゆく方法について助言を受け、ズウィッカー准教授からはミシガン大学に所蔵されている関連古典籍の情報を得た。準備段階では、本研究が、国内外の古典教育に果たす役割について、本研究課題のメンバー間で綿密な意見交換や議論を交わし、『十番虫合絵巻』という古典籍が、くずし字教育や古典文化教育のコンテンツとして、国際的にも大きな可能性をもっているという認識を共有した。研究会は2021年4月から原則として月1回、計13回にわたりオンラインで行われた。参加者は、日本側から盛田帝子（京都産業大学）、飯倉洋一（大阪大学）、松本大（関西大学）、山本嘉孝（国文学研究資料館）、有澤知世（神戸大学）、加藤弓枝（名古屋市立大学）、永崎研仁（人文情報学研究所）、瓦井裕子（就実大学）、アメリカ側からロバート・ヒューイ（ハワイ大学マノア校）、アンドレ・ヘーグ（ハワイ大学マノア校）、フランチェスカ・ピザロ（コロラド大学）、ヒルソン・リードパス（ハワイ大学マノア校・院）、ターニャ・バーネット（ハワイ大学マノア校・院）、ピエール・カルロ・トンマーシ（ハワイ大学マノア校）、ジョナサン・ズウィッカー（カリフォルニア大学バークレー校）、ボニー・マクルーア（カリフォルニア大学バークレー校・院）南清恵（ホノルル美術館）である。

加えて、次年度にオンラインによる定期的な国際研究会を開催し、その成果として、『十番虫合絵巻』の画像（影印）・翻刻・注釈・現代語訳・英訳・研究を出版・WEB公開することと、公開する際の課題について確認し、ホノルル美術館側との原典画像複製についての協議を進めた。

1-2 原本調査の実施

コロナ禍で2020年から2022年まで現地調査が出来なかったが、国内の異本については最重要の大東急記念文庫所蔵本をはじめ、出来る限り調査を行った。2023年9月に、盛田帝子・飯倉洋一・松本大・加藤弓枝・有澤知世・瓦井裕子がホノルル美術館において原本調査を行った。その結果、書誌的項目の再確認のみならず、画像ではわかかならい細密な描写の工夫などを確認することが出来、研究成果に反映することが出来た。

1-3 ワークショップの開催

2023年9月15日には、ハワイ大学マノア校ハミルトン図書館において、研究成果を総括するワークショップを開催した。プログラムの内容は下記の通りである。

A Workshop Jointly Sponsored by the Department of EALL and the Center for Japanese Studies,

and is supported by JSPS KAKENHI Grant Number 20KK0006

University of Hawai'i at Mānoa, Hamilton Library 401

September 15, 2023 (F); 1:30 PM - 4:30 PM (refreshments to follow)

Keynote Addresses (50 minutes each, including Q & A)

Address 1: Robert Huey (Professor Emeritus, University of Hawai'i at Mānoa), in English
Jūban Mushi-awase: A Challenge for Scholars, a Pleasure for Viewers

十番虫合：学者には大変、読者には楽しい

Address 2: Morita Teiko (Professor, Kyōto Sangyō University), in Japanese

ホノルル美術館所蔵『十番虫合絵巻』の魅力

Attractions of the Honolulu Museum of Art's of Jūban Mushi-awase Emaki

Presentations (30 minutes each, including Q & A)

Presentation 3: Matsumoto Ōki (Associate Professor, Kansai University), in Japanese

『十番虫合絵巻』における類題和歌集の利用

The Use of Topically-Categorized Waka Anthologies in Jūban Mushi-awase Emaki

Presentation 4: Hilson Reidpath (PhD Candidate, University of Hawai'i at Mānoa), in English

Don't Stop Bugging Me: Insects' Songs in Jūban Mushi-awase

騒音ではありません：十番虫合における虫の声

1-4 日英両国語による研究成果の出版

1-1で述べた研究会では、校訂本文の作成、注釈、現代語訳、英訳、英注について、議論した。その成果を書籍として公開すべく、2022年11月から、盛田帝子・飯倉洋一・松本大の3名により、13回にわたり、対面による注釈検討会を行い、ハワイ大学メンバーと山本嘉孝の間では英訳の検討を行った。そして、2024年3月、盛田帝子・ロバート・ヒューイ編『江戸の王朝文化復興—ホノルル美術館所蔵レイン文庫『十番虫合絵巻』を読む』(The Heian Culture Revival

in Edo:Reading the Juban Mushi-awase scrolles in the Honolulu Museum of Art' s Lane Collection)』(文学通信)を日英両国語版として刊行した。

1-5 WEBによる成果公開

『十番虫合絵巻』の画像・校訂本文・現代語訳・注釈・英訳について、WEBサイトを作成し、成果報告を行った(<https://juban-mushi-awase.dhii.jp>)公開するにあたり、虫合絵巻ビューワを永崎研宣が開発し、永崎の所属機関のサーバを使用した。虫合絵巻ビューワは、『十番虫合絵巻』における様々な構造を記述した上で、虫合・歌合を理解しやすくするビューの提供を目指したものである。虫合絵巻ビューワでは、『十番虫合絵巻』のテキストデータの記述に際し、Unicodeに準拠して文字を正規化した上で、TEI(Text Encoding Initiative)ガイドラインに準拠したテキストの構造化を行っている。また、絵巻の画像はIIIFに準拠した仕様で公開した上で、TEI準拠テキストから参照できるようにしている。テキストデータのTEI準拠の記述の仕方については、基本的には、日本語向けTEIガイドラインに準拠している。和歌や歌合としての構造のマークアップ手法については、加藤弓枝・幾浦裕之が知見を提供し、全体的な構造や各要素のリンクの仕方等については永崎研宣が設計した。また、マークアップ作業は主に藤原静香(京都産業大学研究補助員)が担当し、永崎が補助的な作業を行った。虫合絵巻ビューワでは、一般財団法人人文情報学研究所が公開しているTEI古典籍ビューワを基礎としている。虫合絵巻ビューワは、このTEI古典籍ビューワに対して、さらに対訳表示や画像表示などに関わる様々な機能を組み込む形でカスタマイズ版として開発されている。開発は、永崎とフェリックス・スタイルの本間淳が担当した。

② 「古典の再生」をめぐる研究

本研究は、現代における古典の復権という大きな課題を一方では見据えている。この問題に取り組んでいたのがエドアルド・ジェルリーニである。ジェルリーニは、「テキスト遺産」という概念を提唱し、河野貴美子(早稲田大学)とともに、テキスト遺産をテーマに2020年7月に、国際シンポジウムをオンラインで開催、それを元に『古典は遺産か 日本文学におけるテキスト遺産の利用と再創造』(勉誠出版、2021年10月)を出版した。盛田帝子・飯倉洋一・山本嘉孝は、このプロジェクトに参加しており、ジェルリーニと古典の復権について意見交換を重ねていた。その結果、「古典の再生」というキーワードで、国内外からこの問題に取り組んでいる研究者を一堂に集めたシンポジウムを開催し、それを元に論文集を作るという計画が立った。

2-1 国際シンポジウム「古典の再生」の開催

1年以上前から、登壇者との交渉、プログラムの構成、会場の確保、広報を行い、2023年2月11日・12日に、国際シンポジウム「古典の再生」を京都産業大学むすびわざ館で開催した(オンライン併用)。プログラムは下記の通りである。

2023年2月11日(土)(1日目)13:35-17:40

【開会あいさつ】13:35-13:40

京都産業大学 外国語学部・学部長 平塚徹

【パネルディスカッション 再生する古典】

〈基調講演〉13:40-14:40(60分)「古典×再生=テキスト遺産 過去文化の復興における文学の役割」エドアルド・ジェルリーニ(ヴェネツィア・カフオスカリ大学)

〈発表〉14:55-16:10(発表各25分)司会 飯倉洋一(大阪大学)

「18-19世紀における王朝文学空間の再興」盛田 帝子(京都産業大学)

「琉球における日本古典文化の受容」ロバート・ヒューイ(ハワイ大学)

「古典の再生-古事記・日本書紀・風土記の翻訳と海外における受容」アンダソヴァ・マラル(早稲田大学)

〈討論〉16:20-17:00(40分)

エドアルド・ジェルリーニ+盛田 帝子+ロバート・ヒューイ+アンダソヴァ・マラル
ディスカサント 荒木 浩(国際日本文化研究センター)

〈特別プレゼン〉17:10-17:40(30分)司会 加藤弓枝

「古典本文をWEBに載せる-TEIガイドラインに準拠したテキストデータ構築」永崎研宣(人文情報学研究所)+幾浦裕之(国文学研究資料館)+藤原静香(京都産業大学非常勤研究員)

2023年2月12日(日)〈2日目〉10:00-17:15

(10:00~12:10)

【セッション1 イメージとパフォーマンス】発表25分 討論20分 司会 盛田帝子(京都産業大学)

「絵巻と『徒然草』絵注釈の間-デジタルアプローチの試みをかねて」楊 曉捷(カルガリー大学) ※ビデオによるプレゼン

「人麿画像の讃の歌」佐々木 孝浩(慶応義塾大学)

「霊媒(メディウム)としての古典:初期テレビと1956年の幽霊」ジョナサン・ズイッカー(カリフォルニア大学バークレー校)

「女房装束の変遷-平安期女房装束の復元を通じて-」佐藤 悟(実践女子大学)

ディスカサント 山田 和人 (同志社大学)

(13:30-15:05)

【セッション2 源氏物語再生史】発表 25 分 討論 20 分 司会 加藤 弓枝 (名古屋市立大学)

「女房たちの源氏物語—『阿仏の文』を視座に」 田渕 句美子 (早稲田大学)

「『源氏物語』享受史における詞の表象」 松本 大 (関西大学)

「樋口一葉における和歌と源氏物語」 兵藤 裕己 (学習院大学)

ディスカサント 中嶋 隆 (早稲田大学)

(15:35~17:10)

【セッション3 江戸文学のなかの古典】 発表 25 分 討論 20 分 司会 有澤 知世 (神戸大学)

「江戸幕府の儒臣と朝廷の文物 — 柴野栗山の事例を中心に」 山本 嘉孝 (国文学研究資料館)
(※オンライン参加)

「紀行文の中の古典」 ユディット・アロカイ (ハイデルベルク大学)

「上田秋成における〈古典〉語り」 飯倉 洋一 (大阪大学)

ディスカサント 合山 林太郎 (慶応義塾大学) (※オンライン参加)

【閉会あいさつ】 17:10~17:15

京都産業大学・外国語学部・盛田帝子

なお 2 月 12 日には登壇者名がむすびわざ館に集まり、2 時間にわたって意見交換を行った。

本シンポジウムは 14 か国 472 名が参加登録する盛況であった。本シンポジウムには国際的に活躍する 5 か国 (米国・イタリア・カナダ・ドイツ・カザフスタン) の日本文学研究者を招き、23 名が登壇し、様々な視点から問題を掘り下げ、討議した。対面で行われたことにより、国際学術交流が一気に推し進められて有意義であった。京都新聞にも出色の研究集会と紹介された (2023 年 3 月 28 日)。

2-2 『古典の再生』の出版

シンポジウムは予定通り書籍化され、2024 年 3 月、『古典の再生』(文学通信)として刊行された。本書はシンポジウムでの議論を承け、さらに深く問題点を掘り下げ、次代に繋げる古典の可能性を拓く一冊となった。

③ Coil 教育

COIL 教育は、2021 年度、UCB のジョナサン・ズウィッカー准教授の授業に、研究代表者、分担者の飯倉洋一・松本大、研究協力者の山本嘉孝・有澤知世が講師として参加し、オンデマンドまたはオンラインで、古典復興をテーマとする授業を行い、教材を提供した。学生の反応は良好であった。

なお、①②の書籍以外にも、科研チーム構成員は多くの論文を公刊し、学会発表を行っているが、それについては業績欄に譲る。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計47件（うち査読付論文 19件 / うち国際共著 4件 / うちオープンアクセス 12件）

1. 著者名 盛田帝子	4. 巻 71巻7号
2. 論文標題 安永天明期における王朝文化の復興－古典知の再創造と人的交流－	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 日本文学	6. 最初と最後の頁 24-35
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 盛田帝子	4. 巻 23号
2. 論文標題 東都における宮廷文化再興の系譜－吉宗・宗武から景雄・季鷹・千蔭へ	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 日本文学研究ジャーナル	6. 最初と最後の頁 110-130
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 村田祐菜, 永崎研宣, 大向一輝	4. 巻 vol. 3, no. 1
2. 論文標題 近代短歌全文テキストデータベースの構築	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 デジタル・ヒューマニティーズ	6. 最初と最後の頁 17-26
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.24576/jadh.3.1_17	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Kazuhiro Okada, Satoru Nakamura and Kiyonori Nagasaki,	4. 巻 14
2. 論文標題 “Rubi as a Text: A Note on the Ruby Gloss Encoding”	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 ,Journal of the Text Encoding Initiative [Online]	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.4000/jtei.4403	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 塩井祥子, 永崎研宣	4. 巻 2022
2. 論文標題 日本近代文学における自筆資料の構造的記述の可能性 江戸川乱歩自筆資料を手がかりとして	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 じんもんこん2022論文集	6. 最初と最後の頁 67-72
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 永崎研宣, 中村覚, 田中真, 西河雅人, 林龍樹, 井上慶淳	4. 巻 2022
2. 論文標題 構造化テキストデータの活用における現状と課題 TEI に準拠した『浄土真宗聖典全書』全文検索システムの開発を通じて	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 じんもんこん2022論文集	6. 最初と最後の頁 73-78
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 西岡千文, 永崎研宣, 清水元広, 下田正弘	4. 巻 2022
2. 論文標題 人文学におけるオープン・サイテーションの可能性 - インド学仏教学分野を事例として -	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 じんもんこん2022論文集	6. 最初と最後の頁 257-262
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中原真祐子, 永崎研宣	4. 巻 2022
2. 論文標題 テキストマイニングから探る「大正期ベルクソンブーム」の内実	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 じんもんこん2022論文集	6. 最初と最後の頁 295-300
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 塩井祥子, 永崎研宣	4. 巻 4
2. 論文標題 TEIガイドラインに基づいた江戸川乱歩『二銭銅貨』草稿のマークアップの提案	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 研究報告人文科学とコンピュータ (CH) 2022-CH-130	6. 最初と最後の頁 67-72
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 KATAKURA Shumpei, NAGASAKI Kiyonori, OHMUKAI Ikki	4. 巻 32
2. 論文標題 Consideration of a text encoding initiative markup for ancient Chinese characters present on Chinese excavated materials	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Joho Chishiki Gakkaishi	6. 最初と最後の頁 410 ~ 413
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.2964/jsik_2022_036	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 菊池信彦, 永崎研宣, 乾善彦, 海野圭介, 小川歩美, 吉賀夏子	4. 巻 8
2. 論文標題 和歌のXML/TEIデータ分析のための自主学習環境の構築	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 研究報告人文科学とコンピュータ (CH) 2023-CH-131	6. 最初と最後の頁 1-3
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 松本大	4. 巻 71
2. 論文標題 安住院蔵『源氏物語』夕顔巻断簡校異一覧	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 詞林	6. 最初と最後の頁 1 - 12
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.18910/87131	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 松本大	4. 巻 1
2. 論文標題 安住院蔵『源氏物語』夕顔巻断簡・東屋巻断簡の紹介 付、翻刻・影印	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 中山一麿編『寺院文献資料学の新展開 4巻 安住院資料の調査と研究』	6. 最初と最後の頁 63 - 109
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 金子 馨, 長田 和也, 中西 保仁, 林 知左子, アレッサンドロ ピアンキ, 南 清恵, 加藤 弓枝, 木越 俊介	4. 巻 116
2. 論文標題 シンポジウム 「 見せる / 魅せる 近世文学」報告	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 近世文藝	6. 最初と最後の頁 43-57
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.20815/kinseibungei.116.0_43	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 加藤 直志, 加藤 弓枝, 三宅 宏幸	4. 巻 67
2. 論文標題 くずし字による古典教育の試み(7) : 和本バンクを活用した出前授業	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 名古屋大学教育学部附属中・高等学校紀要	6. 最初と最後の頁 105-116
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.18999/bulsea.67.105	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 大谷俊太, 山中延之, 加藤弓枝, 大山和哉, 藤原静香	4. 巻 22
2. 論文標題 : 藤島宗順『詠草留』(安永六年分) 解題と翻刻	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 国文論藻	6. 最初と最後の頁 29-57
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 加藤弓枝	4. 巻 434
2. 論文標題 教育現場への古典籍無償貸出プロジェクト「和本バンク」	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 カレントアウェアネスE	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 加藤弓枝	4. 巻 18
2. 論文標題 名古屋の名所：歌枕とコンテンツ・ツーリズム	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 人間文化研究所年報	6. 最初と最後の頁 11-14
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 加藤弓枝	4. 巻 1
2. 論文標題 絵入百人一首の出版：女子用往来物を中心に	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 百人一首の現在	6. 最初と最後の頁 210-231
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 飯倉洋一	4. 巻 1
2. 論文標題 なぜ「くずし字教育」が必要なのか	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 未来を切り拓く古典教材	6. 最初と最後の頁 76-86
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 飯倉洋一	4. 巻 23
2. 論文標題 吹田市立博物館所蔵上田秋成自筆長歌一幅について	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 吹田市立博物館館報	6. 最初と最後の頁 32-35
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山本嘉孝	4. 巻 71(7)
2. 論文標題 中村蘭林『学山録』に見られる西洋天文学の知識 考証随筆の淵源をたどる	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 日本文学	6. 最初と最後の頁 36 - 46
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 有澤知世	4. 巻 98
2. 論文標題 「津国女夫池」三段目小考 『一夜船』との比較を手掛かりに	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 同志社国文学	6. 最初と最後の頁 69 - 82
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 盛田帝子	4. 巻 261
2. 論文標題 光格天皇と本居宣長－御所伝受と出版メディアをめぐって	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 アジア遊学(勉誠出版)	6. 最初と最後の頁 59-74
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 盛田帝子	4. 巻 52
2. 論文標題 十八世紀の物合復興と『十番虫合絵巻』	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 かがみ(大東急記念文庫)	6. 最初と最後の頁 60-90
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Nishioka Chifumi、Nagasaki Kiyonori	4. 巻 36
2. 論文標題 Understanding IIIF image usage based on server log analysis	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Digital Scholarship in the Humanities	6. 最初と最後の頁 ii210-ii221
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.1093/llc/fqab040	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 橋本雄太, 金甫榮, 中村覚, 小風尚樹, 井上さやか, 茂原暢, 永崎研宣	4. 巻 2021
2. 論文標題 写真資料のクラウドアノテーションシステムの開発: 『渋沢栄一伝記資料』別巻第10 を事例に	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 じんもんこん2021論文集	6. 最初と最後の頁 132-137
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小風尚樹, 中村覚, 永崎研宣, 渡辺美紗子, 戸村美月, 小風綾乃, 清武雄二, 後藤真, 小倉慈司	4. 巻 2021
2. 論文標題 相互運用性を高めた日本歴史資料データ実装: 『延喜式』TEI とIIIF を事例として	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 じんもんこん2021論文集	6. 最初と最後の頁 294-300
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小川 潤、永崎 研宣、大向 一輝	4. 巻 63
2. 論文標題 一次史料における時間的コンテキストを含む社会関係記述モデルの提案と実践	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 情報処理学会論文誌	6. 最初と最後の頁 258-268
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.20729/00216239	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 吉賀 夏子、堀 良彰、只木 進一、永崎 研宣、伊藤 昭弘	4. 巻 63
2. 論文標題 郷土に残存する江戸期古記録の機械可読化を目的とした市民参加および機械学習による固有表現抽出	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 情報処理学会論文誌	6. 最初と最後の頁 310-323
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大月希望, 大向一輝, 永崎研宣, 佐倉統	4. 巻 6
2. 論文標題 デジタル時代における多様な資料継承の仕組みを包括する議論モデルの提案	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 研究報告人文科学とコンピュータ (CH) 2021-CH-128	6. 最初と最後の頁 1-7
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中村覚, 田村隆, 永崎研宣	4. 巻 13
2. 論文標題 デジタル源氏物語 (AI画像検索版) : くずし字OCRと編集距離を用いた写本・版本の比較支援システムの開発	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 研究報告人文科学とコンピュータ (CH) 2021-CH-128	6. 最初と最後の頁 1-8
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 永崎研宣, 長野壮一, 小風尚樹	4. 巻 14
2. 論文標題 人文系学部向け人文情報学 / デジタル・ヒューマニティーズ教育のためのカリキュラムについて	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 研究報告人文科学とコンピュータ (CH) 2021-CH-128	6. 最初と最後の頁 1-6
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 飯倉洋一	4. 巻 261
2. 論文標題 近世中期における「テキスト遺産」と「作者」	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 アジア遊学(勉誠出版)	6. 最初と最後の頁 91-103
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 飯倉洋一	4. 巻 18:19
2. 論文標題 『摂津名所図会』は何を描いたか	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 上方文藝研究	6. 最初と最後の頁 97-109
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 有澤知世	4. 巻 18・19
2. 論文標題 山東京伝『桜姫全伝曙草紙』小考 清閑寺の場面を中心に	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 上方文藝研究	6. 最初と最後の頁 50 57
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 有澤知世	4. 巻 15
2. 論文標題 山東京伝『金々先生造化夢』に見る道德	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 The Ethical debate of Pre-Modern East Asian Intellectuals	6. 最初と最後の頁 70 79
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 有澤知世	4. 巻 59
2. 論文標題 生まれ変わる意匠 京伝作品における野晒模様の衣装	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 国文論叢 (神戸大学)	6. 最初と最後の頁 23 36
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山本嘉孝	4. 巻 261
2. 論文標題 近世日本における『蒙求』の音声化 漢字音と連続性	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 アジア遊学 (勉誠出版)	6. 最初と最後の頁 143-158
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 盛田帝子	4. 巻 97-11
2. 論文標題 光格天皇の文化復興－南殿の桜をめぐる－	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 国語と国文学	6. 最初と最後の頁 16-26
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 盛田帝子	4. 巻 -
2. 論文標題 後桜町天皇と近衛内前－朝廷政治と歌道伝受	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 和歌史の中世から近世へ	6. 最初と最後の頁 467-488
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 盛田帝子	4. 巻 20
2. 論文標題 光格上皇主催御会和歌年表 - 文政期編	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 大手前大学論集	6. 最初と最後の頁 259-329
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 盛田帝子	4. 巻 41
2. 論文標題 カリフォルニア大学バークレー校所蔵 光格上皇御点『実勲詠草』解説と三条西実勲文政期和歌年表	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 国文学研究資料館調査研究報告	6. 最初と最後の頁 151-176
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 盛田帝子	4. 巻 22
2. 論文標題 十八世紀の王朝文化復興－物合・歌合を通して	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 大手前 比較文化学会 会報	6. 最初と最後の頁 15-16
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 松本大	4. 巻 17
2. 論文標題 『源氏物語』葵巻の二つの引歌表現をめぐって－六条御息所詠と三位中将詠の引歌検討－	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 日本文学研究ジャーナル	6. 最初と最後の頁 16-28
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山本嘉孝	4. 巻 35
2. 論文標題 木下順庵と林家	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 北陸古典研究	6. 最初と最後の頁 42 - 57
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 有澤知世	4. 巻 -
2. 論文標題 黄表紙と戯作者京伝の魅力的な陰影	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 ないじえる芸術共創ラガ展 時の束を披く 古典籍からうまれるアートと翻訳	6. 最初と最後の頁 67 - 69
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計61件(うち招待講演 39件/うち国際学会 29件)

1. 発表者名 盛田帝子
2. 発表標題 賀茂季鷹と王朝文化復興
3. 学会等名 第一回 賀茂社家古典籍セミナー(招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 盛田 帝子
2. 発表標題 18-19世紀における王朝文学空間の再興
3. 学会等名 国際シンポジウム「古典の再生」(国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Hashimoto, Yuta; Kim, Boyoung; Nakamura, Satoru; Kokaze, Naoki; Inoue, Sayaka; Shigehara, Toru; Nagasaki, Kiyonori
2. 発表標題 Crowdsourcing as Collaborative Learning: A Participatory Annotation Project for the Photographic Materials of Shibusawa Eiichi
3. 学会等名 Digital Humanities Conference 2022 (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Ogawa, Jun; Nakamura, Satoru; Nagasaki, Kiyonori, Ohmukai, Ikki,
2. 発表標題 Application for visualizing and analyzing the historical network with context-centric model
3. 学会等名 Digital Humanities Conference 2022 (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Hara, Shoko; Ohmukai, Ikki; Nagasaki, Kiyonori; Takagi, Soichiro
2. 発表標題 Analysis of Exhibition Composition Using Co-occurrence Network Analysis
3. 学会等名 Digital Humanities Conference 2022 (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Jun Ogawa, Kiyonori Nagasaki, Ikki Ohmukai, Yusuke Nakamura, Asanobu Kitamoto
2. 発表標題 Text as Object: Encoding the data for 3D annotation in TEI
3. 学会等名 Poster presentation, TEI conference 2022, Newcastle, UK (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Yifan Wang, Kiyonori Nagasaki, Ikki Ohmukai, Masahiro Shimoda
2. 発表標題 Multilingualism and multiscryptism in TEI publishing
3. 学会等名 DH2022, TEI conference 2022 virtual poster session, online (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 永崎研宣
2. 発表標題 新技術を活用した新たな図書館サービスの可能性
3. 学会等名 令和3年度大学図書館長期研修 (招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Kiyonori Nagasaki
2. 発表標題 Access to Digital Tools, Resources, and Methods for Japanese Studies
3. 学会等名 18. Deutschsprachigen Japanologentag (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 永崎研宣
2. 発表標題 初めてのXML
3. 学会等名 英語コーパス学会ワークショップ（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 永崎研宣
2. 発表標題 デジタル時代における学術資産の社会還元と継承に向けて
3. 学会等名 大阪大学グローバル日本学教育研究拠点 月例ワークショップ（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 永崎研宣
2. 発表標題 デジタル時代の日本語文化圏の人文学が英文学に期待すること
3. 学会等名 日本英文学会中国四国支部第 74 回大会（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Kiyonori Nagasaki
2. 発表標題 Utilization for Digital Images for Buddhist Studies
3. 学会等名 Workshop & Symposium: Perspectives of Digital Humanities in the Field of Buddhist Studies, University Hamburg, (Germany)（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 永崎研宣, 王一凡
2. 発表標題 仏典文字の標準化におけるSATの取組み
3. 学会等名 シンポジウム「古辞書データ共有と拡張」(招待講演)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Kiyonori Nagasaki
2. 発表標題 A history and perspective of the SAT Buddhist database project
3. 学会等名 Workshop "Perspectives on Digital Humanities in Japan and Germany", University Trier, Germany (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 永崎研宣, 幾浦裕之, 藤原静香
2. 発表標題 古典本文をWEBに載せる-TEIガイドラインに準拠したテキストデータ構築
3. 学会等名 国際シンポジウム 古典の再生(国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 永崎研宣
2. 発表標題 デジタル人文学の現状と課題
3. 学会等名 第24回 京都大学 情報学シンポジウム(招待講演)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 永崎 研宣, 菊池 信彦, 乾 善彦
2. 発表標題 万葉集伝本研究のDX化に向けて：関西大学所蔵廣瀬本万葉集を事例に
3. 学会等名 KU-ORCAS研究集会 -言語交渉研究班-【言語研究とデジタルヒューマニティーズ】（招待講演）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 永崎研宣
2. 発表標題 人文学とコンピュータ、その過去・未来・現在
3. 学会等名 学術講演会「デジタル・ヒューマニティーズ最前線」, 龍谷大学古典籍・文化財デジタルアーカイブ研究センター（招待講演）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Kiyonori Nagasaki
2. 発表標題 Content Curation with IIIF, Beyond Covid
3. 学会等名 Preparing the Next Generation of Japanese Studies Librarians Workshop, Harvard-Yenching Library（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Kiyonori Nagasaki
2. 発表標題 DH for East Asian Studies in Japan
3. 学会等名 Plenary: Overview of Digital Humanities for East Asian Studies, Tools of the Trade conference, Harvard University（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Kiyonori Nagasaki
2. 発表標題 A History and Perspective of the SAT, A Buddhist Database Project, Exemplary Projects: Buddhism
3. 学会等名 Tools of the Trade conference, Harvard University (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 永崎研宣
2. 発表標題 人文学における研究データの現状と課題
3. 学会等名 科学データ研究会 + WDS国内シンポジウム (第10回) (招待講演)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Kiyonori Nagasaki
2. 発表標題 Activities of the International Institute for Digital Humanities, Center Sessions
3. 学会等名 Japan, Tools of the Trade conference, Harvard University (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Kiyonori Nagasaki
2. 発表標題 Digital Humanities in Japanese Studies
3. 学会等名 2023 Digital Japanese Studies Symposium, Digital Humanities as New Paradigm on Japanese Studies in Indonesia, BINUS University, Jakarta Indonesia, online (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 松本大
2. 発表標題 陽明文庫蔵『源氏物語註』の基礎的研究 『萬水一露』の成立過程と注釈姿勢の再検討
3. 学会等名 第322回大阪大学古代中世文学研究会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 松本大
2. 発表標題 『萬水一露』の成立過程の再検討 陽明文庫蔵『源氏物語註』の紹介をかねて
3. 学会等名 中古文学会関西部会第63回例会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 松本大
2. 発表標題 『源氏物語』享受史における詞の表象
3. 学会等名 国際シンポジウム「古典の再生」（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 松本大
2. 発表標題 古典籍享受の実相と作品世界の把握
3. 学会等名 （物語研究会2022年度3月例会（第443回）ミニ・シンポジウム「物語論と注釈 分断から再結合への祈りを込めて」（招待講演）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 加藤弓枝
2. 発表標題 家集を出版する意味：江戸時代における私家集享受と書物観
3. 学会等名 名古屋市立大学人間文化研究所マンデーサロン（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 加藤弓枝
2. 発表標題 書ををしむならばし：江戸時代における私家集板行と書物観
3. 学会等名 東海近世文学会 9月例会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 加藤弓枝
2. 発表標題 歌人としての賀茂真淵：出版された家集を中心に
3. 学会等名 第2回賀茂真淵セミナー（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 加藤弓枝
2. 発表標題 超入門！和本・くずし字のトリセツ：和本のトリセツ
3. 学会等名 同志社大学古典教材開発研究センター第5回コテキリの会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 飯倉洋一
2. 発表標題 古典文学研究は社会とどうつながるのか
3. 学会等名 就美大学表現文化学会公開学術講演会（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 飯倉洋一
2. 発表標題 上田秋成における 古典 語り
3. 学会等名 国際シンポジウム「古典の再生」（国際学会）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 飯倉洋一、中島ひとみ、佐々木孝浩、平野多恵、山田和人
2. 発表標題 座談会：未来を切り拓く古典教材 和本。くずし字でこんな授業ができる
3. 学会等名 古典教材開発研究センター：第6回コテキリの会（招待講演）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 山本嘉孝
2. 発表標題 江戸幕府の儒臣と朝廷の文物 柴野栗山の事例を中心に
3. 学会等名 国際シンポジウム「古典の再生」（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Jonathan Zwicker
2. 発表標題 “Reibai toshite no koten: shoki terebi to 1956 nen no yurei”
3. 学会等名 Koten no saisei, Kyoto Sangyo University, Kyoto, Japan (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 有澤知世
2. 発表標題 自序に登場する 作者 山東京伝の戯作から
3. 学会等名 2022年度神戸大学国語国文学会シンポジウム「近世俗文芸の作者の”姿勢(ポーズ)” 序文を手掛かりとして 」
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 有澤知世
2. 発表標題 近世日本文学と雰囲気学 近世絵本にみる「心」と「魂」と身体
3. 学会等名 EAST WEST ATMOSPHERES (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 有澤知世
2. 発表標題 平戸・松浦史料博物館蔵の江戸戯作
3. 学会等名 海港、軍港と人文学 フィールドワークと文献と (招待講演)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Robert Huey
2. 発表標題 琉球における日本古典文化の受容
3. 学会等名 国際シンポジウム「古典の再生」(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Robert Huey
2. 発表標題 『喜安日記』における『平家物語』利用
3. 学会等名 「ホノルル国際共同研究会」(ハワイ大学)(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Robert Huey
2. 発表標題 The Lane Collection at the Honolulu Museum of Art
3. 学会等名 Rotary Club of Ala Moana, Honolulu, Hawaii (招待講演)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 盛田帝子
2. 発表標題 光格天皇遷幸行列の出版をめぐる
3. 学会等名 2020年度科研基盤研究(B)「近世中後期上方文壇における人的交流と文芸生成の場」研究会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 盛田 帝子
2. 発表標題 光格天皇と源氏物語 - 文学遺産 を軸とした江戸時代の政治復興の一例
3. 学会等名 ヨーロッパ日本研究協会 (European Association of Japanese Studies) 2021年 国際会議 (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Kiyonori Nagasaki
2. 発表標題 Towards an Ecosystem for Buddhist Studies in the Digital Era, International Webinar on Digital Humanities
3. 学会等名 GOLDEN JUBILEE CELEBRATIONS I n SESHADRIPURAM EVENING DEGREE COLLEGE, India (Online) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 永崎 研宣
2. 発表標題 人文学におけるデジタル技術活用の現在：デジタル・ヒューマニティーズの動向を通じて
3. 学会等名 新潟大学人文学部主催講演会「デジタルヒューマニティーズ：人文学とデータサイエンスの融合とその未来」(招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Kiyonori Nagasaki
2. 発表標題 ADHO, JADH and Asian DH, DHARTI2022 conference
3. 学会等名 DHARTI (Digital Humanities Alliance for Research and Teaching Innovations), India (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 飯倉洋一
2. 発表標題 The Genji monogatari from “Literary Heritage” to entertainment -Fictionalization of classical learning during the Edo period
3. 学会等名 EAJS 2021 (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 飯倉洋一
2. 発表標題 雅俗再考-秋成を例に
3. 学会等名 シンポジウム雅俗論のゆくえ (招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 飯倉洋一
2. 発表標題 浪花人秋成
3. 学会等名 大阪大学国語国文学会 (招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 松本大
2. 発表標題 『源氏物語』古注釈書研究の課題と展望
3. 学会等名 関西大学国語国文学会 (招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 松本大
2. 発表標題 安住院蔵『源氏物語』断簡をめぐる
3. 学会等名 大阪大学古代中世文学研究会・寺院資料調査研究報告合同特別例会「知られざる古筆・断簡と寺院経蔵-瓶井山禅光寺安住院-」
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 松本大
2. 発表標題 林原美術館蔵『伊源物語絵巻』について-源氏絵の様相-
3. 学会等名 関西大学・林原美術館共催学術シンポジウム「綱政公の文事・芸事」
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 有澤知世
2. 発表標題 山東京伝『金々先生造化夢』に見る道徳
3. 学会等名 檀國大學校日本研究書海外学術大会「前近代東アジア知識人の倫理論争」（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 山本嘉孝
2. 発表標題 Early Edo Antiquarianism: Hayashi Gaho's Imitation of Heian Court kanshi
3. 学会等名 ヨーロッパ日本研究協会（European Association of Japanese Studies）2021年 国際会議（国際学会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 盛田 帝子
2. 発表標題 十八世紀の王朝文化復興－物合・歌合を通して
3. 学会等名 第23回大手前比較文化学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 飯倉 洋一
2. 発表標題 なぜ「くずし字教育」が必要なのか
3. 学会等名 同志社大学古典教材開発研究センター設立記念研究集会「古典教材開発の課題と可能性」(招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 松本 大
2. 発表標題 『伊勢物語色紙』(六葉)の紹介
3. 学会等名 第310回大阪大学古代中世文学研究会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 山本 嘉孝
2. 発表標題 The Afterlife of Chinese Classics: How “Shi” Became “Poetry” in Modern Japan
3. 学会等名 2021 Association for Asian Studies (AAS) Annual Conference (国際学会)
4. 発表年 2021年

〔図書〕 計7件

1. 著者名 一般財団法人人文情報学研究所 (監修), 石田 友梨 (著, 編集), 大向 一輝 (著, 編集), 小風 綾乃 (著, 編集), 永崎 研宣 (著, 編集), 宮川 創 (著, 編集), 渡邊 要一郎 (著, 編集)	4. 発行年 2022年
2. 出版社 文学通信	5. 総ページ数 424
3. 書名 人文学のためのテキストデータ構築入門-TEIガイドラインに準拠した取り組みにむけて	

1. 著者名 同志社大学古典教材開発研究センター、山田 和人、加藤 直志、加藤 弓枝、三宅 宏幸	4. 発行年 2023年
2. 出版社 文学通信	5. 総ページ数 208
3. 書名 未来を切り拓く古典教材	

1. 著者名 Jonathan Zwicker	4. 発行年 2023年
2. 出版社 Oxford University Press	5. 総ページ数 288
3. 書名 Kabuki's Nineteenth Century	

1. 著者名 一般財団法人人文情報学研究所、小風 尚樹、小川 潤、纒田 宗紀、長野 壮一、山中 美潮、宮川 創、大向 一輝、永崎 研宣	4. 発行年 2021年
2. 出版社 文学通信	5. 総ページ数 496
3. 書名 欧米圏デジタル・ヒューマニティーズの基礎知識	

1. 著者名 木越 治・丸井貴史・高松亮太・中野 遙・紅林健志・岡部祐佳・有澤知世・山本嘉孝・真島 望・日置貴之・加藤十握・中村 唯・宇治田健志・堀切克洋・パリュスあや子・木ノ下裕一	4. 発行年 2021年
2. 出版社 文学通信	5. 総ページ数 320
3. 書名 読まなければなにもはじまらない	

1. 著者名 山本 嘉孝	4. 発行年 2021年
2. 出版社 名古屋大学出版会	5. 総ページ数 440
3. 書名 詩文と経世	

1. 著者名 片桐 洋一、山本 登朗、大谷 俊太、盛田 帝子	4. 発行年 2020年
2. 出版社 笠間書院	5. 総ページ数 254
3. 書名 伊勢物語古注釈大成 6	

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>国際シンポジウム「古典の再生」ホームページ https://kotensaisei.wixsite.com/website 十番虫合絵巻ホームページ https://juban-mushi-awase.dhii.jp</p>

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	永崎 研宣 (Nagasaki Kiyonori) (30343429)	一般財団法人人文情報学研究所・人文情報学研究部門・主席 研究員 (82683)	
研究分担者	松本 大 (Matsumoto Ooki) (30757018)	関西大学・文学部・准教授 (34416)	
研究分担者	飯倉 洋一 (Iikura Yoichi) (40176037)	大阪大学・人文学研究科(人文学専攻、芸術学専攻、日本学 専攻)・名誉教授 (14401)	
研究分担者	加藤 弓枝 (Kato Yumie) (10413783)	名古屋市立大学・大学院人間文化研究科・准教授 (23903)	

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	山本 義孝 (Yamamoto Yoshitaka)	国文学研究資料館 (62608)	
研究協力者	有澤 知世 (Arisawa Tomoyo)		
研究協力者	ヒューイ ロバート (Huye Robert)		

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	ズウィッカー ジョナサン (Zwicker Jonathan)		

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計1件

国際研究集会 国際シンポジウム「古典の再生」	開催年 2023年～2023年
---------------------------	--------------------

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------